

1 単元について

対 象 学 年	小学校 第4学年
学 習 指 導 要 領	第3学年及び第4学年 C読むこと(1)ア、イ B書くこと(1)イ 言語事項 (1)エ
単 元 名	「わたしたちの体について調べよう」 (全11時間)
単 元 目 標	自分たちの体について興味をもち、疑問をもちながら文章を読み取ったり書いたりすることができる。(国語への関心・意欲・態度) 人の体について、関連した図書を読むことができる。(読む能力) 体を守る仕組みについて、内容を正確に読み取るために、各段落の要点や段落相互の関係をつかむことができる。(読む能力) 「これが『わたし』です」の作品作りのため、体についての資料から必要な情報を収集したり選択したりしながら、分かりやすい文章で書くことができる。(書く能力) 「体を守る仕組み」や関連資料を読むとき、分からない文字や語句については、辞書を利用して調べることができる。(言語についての知識・理解・技能)
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 個の学習状況に応じた多様な指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものの見方や考え方を深めることができるよう、個々の見方や考え方が記入できるワークシートを使用するとともに、自分の考えのもてない児童には机間指導やプリントの事前回収などでアドバイスを与える。 ・教材の学習で身に付けた力が定着するよう、本などで調べた体の働きについて順序を考えながら適切な接続語を使って分かりやすくカードにまとめ、それを基に『これが「わたし」です』の発表作品を作る。 一人一人のよさや進歩の状況の評価結果を学習活動に生かす指導の工夫 ・児童が自ら学習を振り返り評価する力をもつことができるよう、毎時間の終末で評価の観点を明確にした「学習計画表」を使って、自己評価できるようにする。また、教師はその評価を次時の学習に生かす。 ・学習の見通しをもち、自分の考えのよさや課題を明確にできるように、評価規準に基づいた単位時間のねらいを明確にし、児童の姿のよさを価値付ける。 <p>【言語活動】体を守る仕組みを正確に読み取り、体に関係した本を読む 【言語意識】 (目的) 各段落の要点や段落相互の関係をつかみ内容を正確に読み取るため (場面・ 教室で 友達と 状況) (方法) 接続語などに着目し段落相互の関係を考えたり、中心になる語句から筆者の考えを読み取ったりする学習プリントへの記入や話し合い活動を通して (評価) 毎時間の終末で評価の観点を明確にした「学習計画表」を使った自己評価や学習プリントへの記入内容を通して</p> <p>【言語活動】本などで調べた情報からカードを作り、それをもとに発表作品を作る。 【言語意識】 (相手) 友だちや先生に (目的) 人間がもっている生きる力やそれを行う「体の仕組み」をさらに知るため (場面・ 図書館や教室、保健室や家などその他の場所で 状況) (方法) カードをもとにした発表作品づくりを通して (評価) 分かりやすく文章を書けたかという相互評価を通して</p>
参 考 資 料	資料1：学習計画表・・・単元の学習の見通しをもちたり自己評価をしたりするために使用 資料2：学習プリント1～5・・・話し合いの足場をもつために使用 資料3：「体を守る仕組み」単元テスト・・・評価の資料として使用

2 単元の評価規準

	ア 国語への関心 ・意欲・態度	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ 言語についての 知識・理解・技能
内容の まとめ りご との 評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> 幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、適切に書いている。 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている。 書こうとする事の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書いている。 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている。 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる。 場面の变化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる。 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている。 相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。 自分の目的や必要に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる。 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り必要に応じて活用している。
単元 の 評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> 「体を守る仕組み」を読んで、自分と比べながら文章を読んだり関係のある本を読んでカードにまとめたりして、自分の体について意欲的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 『これが「わたし」です』の作品作りのため、体について関連した資料から、必要な情報を収集したり選択したりしている。 収集や選択した情報から、分かりやすい文章に直してカードにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を守るための仕組みを正確に読み取るために、各段落の要点や段落相互の関係をつかんでいる。 体の仕組みで、疑問に思ったことについて、図書やパンフレットなどいろいろな資料を読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を守る仕組みについて正確に読み取るため、指示語や接続語の働きに気を付けている。 分からない表現や語句については、国語辞典や漢字辞典を利用して調べている。
単位 時間 にお ける 具体 の 評価 規準	<p>筆者の思いに自分の体験を重ね合わせ、疑問をもちながら読んでいる。</p> <p>『これが「わたし」です』の作品作りに興味をもち、自分の体を守る仕組みについて進んで調べ学習を行い、見通しをもって作品を仕上げている。</p>	<p>『これが「わたし」です』の作品作りに向けて、働きや役割に着目しながら、必要な情報を収集や選択している。</p> <p>収集や選択した情報から、働き1・働き2の形で順序を考えながら、適切な接続語を使って、発表作品を作っている。</p> <p>作品展示会で、評価の観点に照らした友だちの作品のよさを話している。</p>	<p>全文を通読し、教材文をまとまりに分け小見出しを付けている。</p> <p>微生物の体への侵入を防ぐための仕組みについて、接続語などの働きを考えながら、内容を正しく読み取っている。</p> <p>微生物が侵入した後の体の仕組みについて、時間を表す言葉に着目しながら、内容を正しく読み取っている。</p> <p>既習したいくつかの仕組みを振り返りながら、体に対する筆者の思いを読み取っている。</p> <p>体の仕組みで、疑問に思ったことについて、説明と働きを読み分けて、働きに付箋を付けながら、資料を読んでいる。</p>	<p>体を守る仕組みについて正確に読み取るため指示語や接続語の働きに気を付けている。</p> <p>『これが「わたし」です』の作品作りで必要な文字や語句について、辞書を利用して調べている。</p>

3 指導と評価の計画 < 全 1 1 時間 >

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	提示された写真や「驚いたこと」「初めて知ったこと」の感想交流を通して、本文への関心を高め「リード文」等を活用して学習の見通しをもつことができる。	提示された微生物や病原菌の写真を見て感想を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「体を守る仕組み」を読んで、初めて知ったことや驚いたことを話そう。</div> <p>「体を守る仕組み」を読んで、初めて知ったことや驚いたことに線を引きながら範読を聞く。 各自で音読し、文章とつなげながら感想を交流する。 「単元名」や「リード文」・「学習の窓」を読み、学習の計画を立てる。 ○本時の学習を振り返る。</p>	<ア> 「微生物」や「病原菌」の写真から、自分が発病した経験を進んで発表したり、感想の根拠を明かにして、仲間の感想と比べながら自分の感想を話している。	発言 <自分の感想を話そうとしているか評価する。>	児童の興味を高めるため、「微生物」や「病原菌」の拡大写真を準備する。説明文の読みのめあてをもてるように、「リード文」や「学習の窓」を生かす。
2	全文を通読し、体を守る仕組みについて大きく3つのまとまりに分け、さらに本論を微生物が体に入るのを防ぐ仕組みと微生物が入り込んだ後の仕組みに分けることができる。	「体を守る仕組み」を3つに分けるとするとどこで分けたらいいか考えながら通読する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「体を守る仕組み」を大きな3つのまとまりに分けよう。</div> <p>教科書P25を参考に3つのまとまりに分ける。 本論をそれぞれの役割から、微生物が体に入るのを防ぐ仕組みと微生物が入り込んだ後の仕組みに分ける。 4つのまとまりごとに小見出しを付ける ○本時の学習を振り返る。</p>	<エ> 全文を3つの大きなまとまりに分け、さらに本論を微生物が体に入るのを防ぐ3つの仕組みと、微生物が入り込んだ後の白血球の仕組みに分けている。	ワークシート <体を守る5つの仕組みをもらさず読み取り、小見出しを付けているか評価する。>	語句調べを家庭学習とし、特に「仕組み」という言葉について確認する。 自分の考えが記入できるワークシートを用意する。
3 本時	接続語など順序を表す言葉に着目し段落相互の関係を考えることで、体には微生物の侵入を防ぐための幾重もの防衛システムがあることを読み取ることができる。	P22L1からP23L16までを、体を守る仕組みに線を引きながら読み、本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「仕組み1」のひみつを読み取ろう。</div> <p>3つの仕組みが、皮ふ・なみだ・せん毛の順になっていることを知り、その理由を考える。 仕組み1に書かれていた秘密について、読み取ったことをワークシートにまとめ発表する。 ○本時の学習を振り返る。</p>	<オ> 体を守る仕組みについて正確に読み取るため接続語の働きに気を付けている。 <エ> 微生物の体への侵入を防ぐための仕組みについて、内容を正しく読み取っている。	発言 ワークシート <「まず」「それから」と「これらとともに」という接続語に着目できたか評価する。> ワークシート <微生物が体に入るのを防ぐ3重の防衛システムを、読み取っているか評価する。>	「皮ふ」・「なみだ」・「せん毛」のフラッシュカードを作り、順番は後で変えられるようにする。 ワークシートに、接続語を丸で囲み、意識化させる。
4	言葉に着目しながら体	P23L7からP24L9を読み、微生物が入り込んだときの2つの仕組みを			

	<p>の中で白血球や発熱など団結しながら戦っている様子を読み取ることができる。</p>	<p>確認する。</p> <p>「仕組み2」のひみつを読み取ろう。</p> <p>2つの仕組みが、白血球と発熱であることを知り、その働きの時間的経緯を考える。</p> <p>仕組み2に書かれていた秘密について、読み取ったことをワークシートにまとめ発表する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<p><エ></p> <p>微生物が侵入した後の体の仕組みについて、時間を表す言葉に着目しながら、内容を正しく読み取っている。</p>	<p>発言</p> <p>ワークシート</p> <p><微生物が入り込んだときの2つの仕組みを「まず」「今度は」「同時に」という言葉から瞬時にしてとられる防衛システムを読み取っているか評価する。></p>	<p>体と役割が記入できるワークシートを用意する。</p> <p>「まず」「今度は」等の言葉に着目させるよう、個別にアドバイスする。</p>
5	<p>既習したいいくつかの仕組みを振り返りながら、体に対する筆者の思いを読み取ることができる。</p>	<p>P24L10から最後までを読み、筆者の思いに傍線を引く。</p> <p>「体を守る仕組み」に込められた筆者の思いを読み取ろう。</p> <p>「ときどき、体にごくろうさまと言ってあげたいですね。」に込められた筆者の思いについて、同ページの「すばらしい仕組み」「おうえんしてやりましょう。」という言葉とあわせて話し合う。</p> <p>既習事項を振り返りながら、さらに調べてみたい問題や疑問を話し合う。</p> <p>本時の学習を振り返る。</p>	<p><エ></p> <p>既習したいいくつかの仕組みを振り返りながら、体に対する筆者の思いを読み取っている。</p>	<p>発言</p> <p>ワークシート</p> <p><「ときどき、体にごくろうさまと言ってあげたいですね。」に着目し読み取っているか評価する。></p>	<p>前時までの学習を想起させる掲示物を活用する。</p> <p>人間の体のすばらしさが感じられるよう個別にアドバイスする。</p>
6	<p>もっと知りたいことから自分の調べ学習の課題を決め、図書館やインターネットで資料を読むことができる。</p>	<p>自分の「体を守る他の仕組み」について交流する。</p> <p>「体を守る仕組み」について、もっと知りたいことを調べよう。</p> <p>「体を守る仕組み」について、自分が調べたいことを決める。</p> <p>図書館やインターネットで資料を探し、説明と働きを読み分けて体の働きの部分に付箋を付ける。</p>	<p><エ></p> <p>体の仕組みで、疑問に思ったことについて、説明と働きを読み分けて、働きに付箋を付けながら、資料を読んでいる。</p>	<p>付箋</p> <p><説明と働きを読み分けて、働きに付箋を付けながら、資料を読んでいるか評価する。></p>	<p>学級で考えた疑問や課題を一覧表にして掲示する。</p> <p>「白いぼうし」のとき学習した図書館での利用の仕方の学習を想起させる。</p>
7	<p>作品発表会に必要なカード作りに向け、必要な情報をノートに書き抜くことができる。</p>	<p>作品づくりのために、収集した体の働きのまとめ方を確認する。</p> <p>体の働きをノートにまとめよう。</p> <p>付箋をした体の働きをノートに書き抜く。</p> <p>分からない文字や語句について、辞書を利用して調べている。</p> <p>本時の学習を振り返る。</p>	<p><ウ></p> <p>「これが『わたし』です」の作品作りに向けて、働きや役割に着目しながら必要な情報を収集や選択している。</p> <p><オ></p> <p>「これが『わたし』です」の作品作りで必要な文字や語句に</p>	<p>ノート</p> <p><『これが『わたし』です』の作品作りに向け、必要な情報を働きや役割に着目しながら、ノートやカードに書き抜いているか評価する。></p> <p>ノート</p> <p><辞典を利用して、調べてノートに書いてあるか評価する。></p>	<p>ノートにメモした資料については、必ず出典を明記するようにする</p> <p>国語辞典と漢字辞典の特性を思い出し、目的に応じて辞典を使い分</p>

			ついで、辞書を利用して調べている。		けさせる。
8 9	<p>写した文と書き直した文を比べ、働きについて順序良く述べたり、接続語を適切に使い分けたりすることの大切さに気づき、分かりやすくカードに書き、作品を仕上げることができる。</p>	<p>P28・29の文を比べ、分かりやすいまとめ方について話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">聞く人が分かりやすい作品を作ろう。</p> <p>ノートに調べた情報から、分かりやすくカードに書き直す。 1枚の画用紙にカードを貼りタイトルを入れ、必要なら図や表などをを入れて発表作品を作る。 本時の学習を振り返る。</p>	<p><ウ> 収集や選択した情報から、働き1・働き2の形で順序を考えながら、適切な接続語を使って、発表作品を作っている。</p> <p><ア> 「これが『わたし』です」の作品作りに興味をもち、見通しをもって作品を仕上げている。</p>	<p>発表作品 <収集や選択した情報から、働き1・働き2の形で順序を考えながら、適切な接続語を使っているか作品を分析し評価する。></p> <p>観察 <『これが「わたし」です』の作品作りに興味をもち、自分の体を守る仕組みについて、進んで調べ学習を行っているか評価する。></p>	<p>比較する文は模造紙などに拡大し、文のみを見て比べられるようにする。</p> <p>書き方が分からない場合には教科書の文例を参考にさせ、児童が選んだ働きに合わせて記述させる。</p>
10	<p>『これが「わたし」です』の発表会を開き、働き1・働き2の形で順序を明かにしたり適切な接続語を使って表現されたりしているよさを見付けることができる。</p>	<p>発表会の目的を確認し、発表会のめあてを作る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">聞く人に調べたことがよく伝わる発表会にしよう。</p> <p>グループごとに分かれ、カードを使った「わたし」発表会を開会する。 評価の観点から明かにした評価表を使い作品のよさを見付けて記録する。 本時の学習を振り返る。</p>	<p><ウ> 収集や選択した情報から、働き1・働き2の形で順序を考えながら、適切な接続語を使って、発表作品を作っている。</p>	<p>発表作品 <収集や選択した情報から、働き1・働き2の形で順序を考えながら、適切な接続語を使って、発表作品を作っているか評価する。></p>	<p>よいまとめの評価の観点を示した評価表を用意し、お互いの作品のよさを相互評価できるようにする。</p>
11	<p>発表会で見付けた作品のよさを出し合う中で、働き1・働き2の形で順序立てて書いたり、適切に接続語を使ったりするよさについて話し合うことができる。</p>	<p>よい作品の条件を発表し合い、評価の観点を確かめる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発表会で見付けた友だちの作品のよさを発表し合おう。</p> <p>グループに分かれ、評価表に記入した作品の良さを発表する。 分かりやすい文章のよさをまとめる。 本時の学習を振り返る。</p>	<p><ウ> 作品展示会で、評価の観点に照らした友だちの作品のよさを話している。</p>	<p>発言 <作品展示会で、評価の観点に照らした友だちの作品のよさを話しているか評価する。></p>	<p>評価の観点を確認する。 働き1・働き2の形で順序を考えながら書いているか。接続語が適切に使われているか。何で調べたのか、きちんと出典が示してあるか。</p>

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- ・ 接続語など順序を表す言葉に着目し段落相互の関係を考えることで、体には微生物の侵入を防ぐための幾重もの防衛システムがあることを読み取ることができる。

(2) 本時の位置

3 / 11 時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	形態	評価について	指導・援助
導入	<p>P 2 2 L 1 から P 2 3 L 6 で、体を守る仕組みに線を引きながら黙読する。</p> <p>本時の課題を確認する。</p>	学級全体	<p><オ > 体を守る仕組みについて、正確に読み取るため、接続語の働きに気を付けている。 ・ 発言 ・ ワークシート</p>	<p>仕組み 1 の中に、「3つ」仕組みがあることをヒントにし、学習意欲を喚起させる。</p>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「体への侵入を防ぐ仕組み 1」のひみつを読み取ろう。</p> </div> <p>体への侵入を防ぐ3つの仕組みを読み取る。 3つの仕組みが、皮ふ・なみだ・せん毛の順になっていることを知り、その理由を考える。</p> <p>・ 「まず」「それから」「これらとともに」という接続語に着目し、その順序性に気付く。 ・ 皮ふ・なみだ・せん毛の順序性について、体の外部から内部へという視点やマクロからミクロへという視点で書かれていることに気付く。 ・ 順序性について考えることで、体というものは幾重もの防衛システムを持つすばらしいものであることということを伝えようとする筆者の思いを知る。</p>	個人 学級全体	<p><「まず」「それから」「これらとともに」という接続語に着目し、その順序性に気付くことができるか評価する。 ></p> <p><エ > 微生物の体への侵入を防ぐための仕組みについて、接続語などの働きを考えながら、内容を正しく読み取っている。 ・ ワークシート</p>	<p>「皮ふ」「なみだ」「せん毛」のフラッシュカードを作り、順番は後で変えられるようにする。 ワークシートに、接続語を丸で囲み、意識化させる。</p>
終末	<p>「体への侵入を防ぐ仕組み 1」に書かれていた秘密について、読み取ったことをワークシートにまとめ発表する。</p> <p>「学習計画表」に、順序性に気付いたか幾重もの防衛システムを読み取ったかの評価の観点で自己評価をする。</p> <p>次時の課題を確認する。</p>	個人 学級全体	<p><微生物が体に入るのを防ぐための幾重もの防衛システムを読み取っているか評価する。 ></p>	<p>構造的に板書し、まとめの時に活用させる。</p> <p>接続語の働きに着目し、説明の順序性に気付くとともに、幾重の防衛システムを読みとっている児童の姿のよさを価値付ける。</p>

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

<エー>

・微生物の体への侵入を防ぐための仕組みについて、接続語などの働きを考えながら、内容を正しく読み取っている。

(2) 評価規準に基づいた個に応じた指導の実際

導入～課題化

まず、「皮ふ」「なみだ」「のどのせん毛」という微生物の体への侵入を防いでいる3つの体の部位と、それぞれの働きを確認した。

体への侵入を防ぐための3つの体の部位と働きについて自分の考えがもてるように、表としてまとめられる学習プリントを用意した。その際、学習プリントの表への書きこみが文章になると長くなり、書くことが苦手な児童には、かえって困難な学習を余儀なくさせる。そこで、前時の学習の復習の中で、微生物と人体との関係について確認する発問をした。発言者に「すみごちがよい所」という短い言葉での発言を引き出し、本時使用する学習プリントの表へ、短い言葉で記入するように導いた。また、前時の学習でも短い言葉でまとめているので、前時の学習プリントを見直させるよう話した。

はじめ、B子は学習プリントの「どんなことをする」という働きを問う欄に、次のように書いていた。

鼻や口から入ってきたび生物を外へ外へと追い出す。

そこで、「働き」に当たる言葉を抜き出すようにアドバイスした。

その結果、

外へ外へと追い出す

という「働き」を端的にとらえた記述に変わることができた。

また、学習プリントへ何を書いてよいか戸惑っていたC男には、机間指導の中で、微生物の体への侵入を防いでいる3つの体の部位（「どんなところで防いでいるかな」「微生物を防いでいる場所はどこかな」）を教科書の挿絵を参考に見つけさせ、それに対応する本文中の言葉を四角で囲うようアドバイスをした。そして、それぞれの働きに当たるところを教科書に傍線を引かせプリントへの記入を促した。その結果、C男はそれぞれの働きに対応させながら学習プリントへ記入することができた。

課題追求の過程で

次に、その順序性について読み取った。

体への侵入を防ぐための3つの体の部位と働きについて、それぞれ3枚のフラッシュカードに記入し、順序が自由に換えられるようにした。さらに、順序性を際立たせるため、机間指導の中であらかじめ把握していた児童の考えから、教科書とは違う順番で黒板にフラッシュカードを並べられるように意図的に指名した。そして、その順序が換えられるかどうか考えさせた。

「まず」「それから」「これらとともに」という順序を表す言葉に着目することで、児童たちはその順序性に気付く。特に、「これらとともに」については、「これとともに」という言葉と比較させることで、3番目に位置することを全体で確認した。また、「まず」「それから」「これらとともに」という順序を表す言葉も、体への侵入を防ぐ3つの体の部位と働きと連動させるため、同じフラッシュカードへ書きこみ、混乱を最小限に収めるようにした。その結果、挙手によって確認したところ、ほとんどの児童がその順序の変更ができないということを理解した。

理解が不十分だったC男をはじめ、少数の子については、机間指導の中で「『まず』は『まず最初に』と同じだよ。『それから』は『次に』と同じだよ」などとアドバイスすることで、理解することができた。

課題解決の過程で

最後に、「微生物の体への侵入を防ぐため、防衛システムが幾重にもなっている」ということについて話し合った。

体への侵入を防ぐための3つの働きについて書いてある順番が、体の外部から内部、または巨視的な視点から微小の視点といった考えを、はじめから自力で読み取っていた児童は少数であった。そこで、既に読み取っているその児童たちを突破口にして話し合わせた。話し合いを進めるうちに、体への侵入を防ぐための3つの働きについて、その順序性から人体に対する驚きにまで読みが深まった児童も出てきた。

まとめの段階になってもなお、幾重にもなっている体の防衛システムが読み取れていなかった児童を、

教師卓の周りに集め、体表・目・口の項目を縦軸に、外部・内部・深部を横軸にした表を用意し、一緒に表を埋めることで思考を助けた。

さらに中	やや中	外	
		皮ふ	全身
	なみだ	まつげ・まぶた	目
せん毛	だ液	くちびる	口

理解が困難だったC男については、再度上記の表を使って個別指導するとともに、人体の絵を描いて理解を促した。

終末での指導

ねらいにかかわって、どの程度読み取っているかについては、発言の内容から判断した。ただし、全員の児童に対して個々がどの程度そこまで読み取っているか判断することは、発言だけでは難しかった。そこで、学習のまとめとして、自分の言葉で学習プリントへの書きこみをさせることで、本時の学習がどの程度の理解だったかを判断した。

話し合いの中で「体を守る仕組みはすごい。」と発言していたB子は、学習プリントの「体を守るための仕組み1」に書かれているひみつは何だと思えますか。」という問いについて、次のように書いていた。

皮ふ・なみだ・せん毛の仕組みがび生物のしん入を防いでいる。

体を守る3つの仕組みを読み取っている点で「おおむね満足できる状況」と考えられたが、その順序が変えられない理由にまでは言及されていなかった。

そこで

「3つの順番は変えてよかったか」

「この順番には何か意味はなかったか」

と質問し、矢印で順番がわかるように書くとよいとアドバイスした。

その結果、

体は、皮ふ なみだ せん毛というように、次から次へとび生物のしん入を防ぐすごい仕組みをもっている。

という記述へと変わることができた。

また、学習プリントの「体を守るための仕組み1」に書かれているひみつは何だと思えますか。」という問いについて、C男は次のように書いてきた。

体を守るためのしくみがある。

C男の記述では、本時の評価規準から照らし合わせて、3つの働きとその順序性への着目ができていないという点で、「努力を要すると判断した状況」にあると考えた。

そこで、

「仕組みはいくつあるのか。」

「どういう仕組みだったか。」

と質問して、もう一度授業内容を確認し、順番を変えずに3つの働きを書くように指示した。

その結果、次のように書き直した。

体を守る仕組みにはには、皮ふ・なみだ・せん毛の3つがある。

次時への授業改善

「皮ふ なみだ せん毛という順に、び生物のしん入を防ぐ幾重ものすばらしい防衛システムを、体はもっている」というようなところまで読み深まっていないうような児童には、次時に筆者の「ごころうさま」という言葉とつなげて考えさせることが大切であると考え、指導計画の一部の見直しを行った。